

# 文芸

## 俳句

一湾を望む高台風涼し

池田 逸子

睡蓮の池の余白やさつば舟

伊藤 敬子

五蘭盆や父母の墓前に子沢山

伊藤 定男

新盆や微笑む遺影に感謝の掌

今関満喜子

箱根路の白き山百合道しるべ

魚地 照子

どの道もしらら乾く土用かな

江森 悦子

どっと来て潮干く如し盆見舞

川島 通則

冷し酒友と交して銀座地下

向後 寛

昼寝子の並ぶ寝顔の瓜二つ

越川せつ子

故里へささずな深むる盆まいり

越川 福子

幼な子も走り出でしの門火かな

越川 義則

友人の姿浮べて灯す盆

小松 藤男

帚木や土間黒々と籠神

佐瀬 輝夫

軍用の浅き噴井に鎌を研ぐ

椎名万里子

送り火の消えたる闇を案じけり

鈴木とし子

懐かしい人との出会い盆三日

鈴木 利子

担ぎ上げし木々に灯ともす大文字

玉虫 栗扇

八月や我が誕生日恙無く

土屋美枝子

木洩れ日に夜干しの梅の匂ひけり

土屋 義昭

窓により半月仰ぐ眞夜中や

戸村 静華

ロンドンの冷夏に燃える五輪の火

西崎さち子

かまきりや生まれてすぐに斧かざす

早川 勇

螢見の旅ともなれり二三匹

藤田 雅夫

## 短歌

いつの間には流れて年を老い  
庭の草とりねこと語らう

内藤 くに

我等今生きる幸せかみしめて  
短き余生を楽しく生さん

鈴木 益郎

はらからも遠く住まへば盆なれど  
亡き父母きつと寂しくあらむ

高梨 キヨ

もくもくと生きるが如く雲の峰  
青空白く染めあげてゆく

土屋 好

見の限り早苗の揃ふ緑田に  
鶯が飛び来て白が加はる

鈴木まさ子

「今晚のおかずはなあに？」勤めより  
帰りし吾娘の声の弾めり

八角 三枝

腰に下げし蚊取線香燻らせて  
山間の畑に小豆蒔きあつ

青木 秀子

頑張れの言葉なけれど独り居の  
吾を励ます友の絵手紙

田崎 尚美

夕涼み木影によりて語ること  
友と遊んだ思い出話

平山 芳子

朝四時の畑仕事は涼しかり  
玉なす露を揺らし草引く

押尾 輝子

足長くすらりと細く姿良し  
マジックミラーの前に立つ身は

西山満里子

幼な日の思ひ出誘ふ合歡の花  
夕べの道にほのと咲きあつ

芹川 初子

さり気なき通話の奥に通ふあり  
娘はふれねども心ぬくとし

吉岡 信子

白木樫あるかなきかの風に揺れ  
みな一様にさ揺れあるなり

斉藤つね子

## こうほう博物館 54

### 黒く光る石

旧石器時代や縄文時代の石器の中には、黒く光る石が多くあります。これは黒曜石と呼ばれる火山ガラスで、割れ口が非常に鋭く、薄く割ることができ、そのため、原始時代ではナイフや矢じりなどの石器に多用されてきました。また、日本は火山列島とも言われるように、火山が多いことから、黒曜石の産する所も各地にあり、黒曜石の石器が多い理由ともなっています。

千葉県内では黒曜石は産してませんが、遺跡からは多くの黒曜石が出土しています。町内でも旧石器時代の鍛冶屋台遺跡や宮ノ前遺跡からは黒曜石の石器が出土しています。また縄文時代の集落跡で知られる東長山野遺跡でも、矢じりの大半が黒曜石製でした。

近年では黒曜石を分析して、その産地を知ることが可能になり、町内出土の石器も分析したところ、さまざまに産地のものであることが分かりました。鍛冶屋台遺跡の黒

曜石は長野県の霧ヶ峰周辺、宮ノ前遺跡のは栃木県の塩原近くの高原山、そして東長山野遺跡のは伊豆神津島産でした。このように時代や遺跡によつて、どれも遠い、異なる産地の黒曜石が用いられています。また、どのようにして黒曜石を持ってきたかわかりませんが、人が多くなく、テレビや電話もない原始時代でも、石の産地についての情報はすごかったことが想像されます。

写真は、鍛冶屋台遺跡出土の三万年前の黒曜石製石器です。  
今月十五日(土)から図書館町民ギャラリーで、考古資料で見る横芝光町の歴史展が開催されます。



▶鍛冶屋台遺跡出土の黒曜石製石器